

MISSION

社会や経済の情勢が複雑化・多様化している今、行政に「理工系」の視点を取り入れることが急務となっています。

それは、確かなデータに基づいて、国家の将来像を描くこと。

この基礎となるのが“統計”です。
公的統計は、「社会の情報基盤」として、
国家・国民の妥当な意思決定を助け、
社会や経済を発展させる役割を担っています。

合理的に政策の立案・評価を行い、
効率的に行政運営を推し進めていく、
そこには理工系の力が不可欠です。

この国の行方を支える基盤づくりにチャレンジしてみませんか。
あなたにしか描けない未来がきっとあるはずです。

CONTENTS

- I 官庁データサイエンス最前線・・・3
- II 行政で活躍する理工系・・・9
- III 若手職員が目線から・・・11
- IV よくある質問・・・13

新たな時代の統計へ

～理工系や女性が活躍する職場から～

総務省 国際統計交渉官 千野 雅人
(前 統計局長)

今、このパンフレットをご覧になっている方は、多少なりとも就職を考え、思い悩み、そして、数ある選択肢の中から国家公務員という職業に興味を持たれた方であろうと思います。

いわゆる文系の職業という印象がある国家公務員の中にあって、総務省では、私を含め、理工系の専門性を持った職員が総合職として働いています。理工系の筋道立てた思考力や世界で競う創造力は、データ革命やAIの進化など新たな時代への変革期にある現代にあって、特に必要とされる能力です。

理工系の総合職職員が活躍する分野は、統計行政を中心に、行政管理、行政評価、情報通信、他府省や国際連合への出向など多岐にわたります。

私自身も、統計の仕事のほか、情報通信部局でケーブルテレビの許認可を行い、内閣官房で総理補佐官制度を立案し、経済産業省に出向して産業デザイン振興政策を推進するなど、いろいろな仕事を経験してきました。統計局長の時には、新たな時代に向けた統計行政の諸改革を進めました。また、統計局長を卒業した今は、年に何回かニューヨークに出張し、国連統計委員会で日本政府を代表して意見を述べたり、委員国選挙に向けて40を超える

国の外交官と交渉を行ったりしています。

現在、統計行政では、ビッグデータを活用した新指標の開発、統計オープンデータの高度化、データサイエンティストの育成、統計ICTの国際展開など、時代の最先端を行く数多くの取組を進めています。

一方、いつの時代にあっても、統計は国家の基礎です。統計がゆがむと、政策がゆがみます。国勢調査の結果がゆがむと、これを基に改定する選挙区の区割りもゆがみ、民主主義がゆがんでしまいます。統計が乱れると、国が乱れるのです。統計の重要性は、今後も変わることはありません。

また、総務省では、テレワークやフリーアドレス、フレックスタイム制など、働きやすい職場環境の整備を各府省に率先して進めており、多くの女性職員が活躍しています。

皆様方のお役に立つよう、職員からメッセージをお届けします。何か興味を引く内容があれば、業務説明会に参加するなど、更に行動を起こして知識を深めてみてください。

熱意ある皆様と共に総務省で働ける日を、心待ちにしています。



1984年 総理府採用
：
2009年 総務省 統計局 統計調査部 調査企画課長
2010年 同 政策統括官(統計基準担当)付
統計企画管理官
2012年 独立行政法人統計センター 理事
2015年 総務省 大臣官房 審議官(恩給、統計局担当)
2015年 同 統計局 統計調査部長
2017年 同 統計局長
2019年 現職